

参考消息（新・7号・20121121）

第18回党大会と一中全会が開かれ、今後10年の方向を決める首脳部人事と政治路線が明らかになった。中国の内政と外交に関するいくつかの注目記事を紹介しながら、勝手に自分なりの分析も行ってみる。

新しい政治局常務委員はなぜこの5人か

習近平の総書記就任は予想されたものだが、胡錦濤の軍事委主席辞任、張徳江以下5人の政治局常務委員入りは「サプライズ」の一面があった。なぜこの5人なのか。最新情報によれば、胡錦濤首脳部が去年の10月の時点から新政治局の人数調整と人選を検討し始め、7人体制への移行もその時提起された、習近平と李克強以外の候補者について胡錦濤自らこの5名を提案した。この5人とも、薄熙来よりも年上なので、当時の主な狙いは「年齢ハードル」を設けて薄熙来の常務委員入りを阻止するためだった、という。以下の記事をご参照。

沈虎寧多維ブログ 121114 常委名单来龍去脈，彰顯胡錦濤政治風範

<http://blog.dnews.com/post-256778.html>

筆者もこのような情報を別ルートで聞いた。

ところが、薄熙来がこの春に自らこけた後、現指導部や多くの長老にとって共通の「脅威」が取り除かれてほっとすると同時に、後継者人事をめぐる駆け引きは一気に表面化した。今年5月、胡錦濤案をベースに高級幹部の約300人近くの参加で「人気投票」のようなアンケート調査が行われたがまとまらず、その後も複数の修正案が出され、元のリストにあった候補者への「ネガティブキャンペーン」もあったようだ。そのため、俞正声は一時期、有力候補者のリストから消えた、という観測もあった。激しい駆け引きは党大会の開催時期の延期（普通は10月開催）、開催直前まで人事案をめぐる憶測が飛び交ったことに現れたが、最終的にはやはり胡錦濤提案にまとまったようだ。

なぜこの5人なのか。結果的にはカリスマ不在の状況下、もっとも穏便で無難な選択肢だったと見ることができよう。

この5人は今回の政治局常務委員会入りで大満足するだろう。しかし年齢制限のルールにより1期5年しか務められないので、習近平ら指導者に文句を言ったり、わざと困らせたりする理由はない。李源潮、汪洋らの「ホープ」は今回の人事で多少の失望感を抱いたのだろう。ただ、李源潮は次期国家副主席、汪洋は副首相という要職にそれぞれ就任する見通しで、次期党大会での常務委員入りも確実に習近平体制への不満を言うこともない。この人事は結果的に、当事者それぞれの不満を最小限にとどめ、他方、習近平指導部にとっては一番やりやすい人事配置となったとみていいではないか。

政法委書記のポストを常務委員会から政治局委員の担当とする変化にも重要な意義があるようだ。

世界新聞網 121120 政法委削權 北京另項政改？

http://www.worldjournal.com/view/full_news/20888400/article-%E6%94%BF%E6%B3%95%E5%A7%94%E5%89%8A%E6%AC%8A-%E5%8C%97%E4%BA%AC%E5%8F%A6%E9%A0%85%E6%94%BF%E6%94%B9%EF%BC%9F?instance=m2

新しい書記局にも新人が多く入った。統一戦線部から二人も入ったことは、今後、台湾、少数民族問題重視の現れか。

多維 121117 党内“内閣”大變臉 中共確立新重心

<http://18.dnews.com/big5/news/2012-11-17/58965829.html>

一方、軍事委の二人の新任副主席についても面白い分析記事があり、許其亮は「非常優秀的軍中奇才」と評されている、という。

明鏡網 121118 新一屆軍委常務副主席之爭 為什麼選中範長龍

http://news.creaders.net/breaking/subject_details.php?nid=541173&id=521450

胡錦濤の軍事委主席辞任と江沢民の行方

胡錦濤の今回の予想外の「裸退」（完全引退）に対して中国国内では喝采、讚美の声が湧き起こっている。反体制派の鮑彤も胡錦濤の完全引退は「中国政治の制度化につながる重要な一歩」と評価している。

RFA121116 胡錦濤的歷史貢獻和七常委的法律責任

<http://www.rfa.org/mandarin/pinglun/baotong-11162012094321.html>

ただ筆者は逆説的に、胡錦濤の影響力はある程度残ると見る。習近平指導部は今後、胡錦濤の意見、アドバイスを気兼ねなく聞くことができるし、政治改革を進める上で、「裸退」した胡錦濤を持ち上げる必要性もどこかで出てくると考えられる。

反対に、江沢民はこれで政治舞台から去ったと見ていいだろう。

江沢民は2003年春に国家主席を降りてから05年までの2年間は軍事委主席に留まり、その後も胡錦濤指導部の人事と政策に大きな影響を与え続けてきた。実はそれはそれなりの「根拠」があった。胡錦濤が党総書記に就任した直後の政治局会議では、「重大な問題に関しては江沢民同志と相談する」という内部決議があったと複数の状況証拠が示している。しかし今回の党大会を前に、胡錦濤は自ら「総書記、国家主席を降りるとともに、軍事委主席からも降りること、今後は引退した老幹部は現役指導部の運営に完全に任せ、勝手に口出しをしないこと」を提案し、了承されたのに伴い、その前任に当たる江沢民も次期指導部に口出しする根拠を失った。江沢民は11月17日、すでに北京を離れたとの目撃情報がある。今後は江沢民について報道を控えようとの指示も出されている、という。

多維論壇 121118 江沢民黯然離京，朱鎔基成元老代表

<http://forum.dnews.com/threadshow.php?tid=1009247&extra=page%3D1>

江沢民はこれからほぼ完全に引退すると筆者も見ている。そうだとすれば、日本のマ

スコミは「江沢民派」といった分類方法をそろそろやめるべきではないか。派閥のトップとされる人すら権力から離れるのだから、「江沢民派」という分類は意味がなくなるだろう。

来年3月の全人代に向けて、政治局常務委員、委員の兼任職務はどうなのか。かなり細かい紹介をした記事が出ている。

博訊 121118 新一屆政治局常委、委員分工 基本不出意料

<http://news.creaders.net/china/newsViewer.php?nid=541178&id=1207674>

外交担当の国務委員の人選などにはまだ変化の余地もあるが、大半の人事はここで予想した通りにいくのではなかろうか。

習近平時代の政策は

18 回党大会の政治活動報告は多くの新概念を盛り込み、精読する価値がある。

新華社 121108 十八大報告蘊含哪些新意？

http://big5.xinhuanet.com/gate/big5/news.xinhuanet.com/18cpcnc/2012-11/08/c_123931943.htm

筆者は、そこに「中国の特色ある社会主義体制」と称する「中国モデル」の構築が強く意識されたことを感じる。習近平が 18 期中央政治局学習會議での講話（20121117）は特に各概念の間のつながり、「中国モデル」の内部構造を説明した。

http://big5.xinhuanet.com/gate/big5/news.xinhuanet.com/2012-11/19/c_123967017.htm

その中の関係部分を下に引用しておく。

深刻領會建設中國特色社會主義的總依據、總布局、總任務。黨的十八大強調，建設中國特色社會主義，總依據是社會主義初級階段，總布局是五位一體，總任務是實現社會主義現代化和中華民族偉大復興。

深刻領會中國特色社會主義是由道路、理論體系、制度三位一體構成的。黨的十八大闡明了中國特色社會主義道路、中國特色社會主義理論體系、中國特色社會主義制度的科學內涵及其相互關係，強調：中國特色社會主義道路是實現途徑，中國特色社會主義理論體系是行動指南，中國特色社會主義制度是根本保障，三者統一于中國特色社會主義偉大實踐。這是中國特色社會主義的最鮮明特色。

これに合わせて、政治報告は「社会主義の核心的価値観」（24 文字）を提示した。

富強、民主、文明、和諧（国家レベル）

自由、平等、公正、法治（社会レベル）

愛国、敬業、誠信、友善（個人レベル）

この 24 文字に「富強」「愛国」という二つの「中国の特色ある」概念も含まれるが、ほかのは「普遍的価値観」とほとんど違わない。報告の最後に「人類の運命共同体」に言及されたのも興味深い。

一中全会直後に習近平が記者の前で語ったことは彼の就任演説と見ていいだろう。そこには民意をくみ上げ、社会の民主化に優先的に取り組んでいく姿勢が強く感じられた。

10年前の胡錦濤の就任演説と習近平のこれを比較した面白い記事もある。

<http://www.ccitv.ca/bbs/forum.php?mod=viewthread&tid=509260>

胡錦濤の「裸退」とともに、習近平の就任演説を高く評価する海外の中国系評論家も記事も紹介しておく。

<http://www.laahaa.com/wangshangtanbing/201211/16-102869.html>

日中関係は

残念ながら、日中関係は打開、好転の糸口をまだつかめていないようだ。日中韓のFTA交渉開始に合意したことは「島をめぐる紛争は続くが、経済分野は切り離していく」兆しとして期待されている。

先週来日した中国の近代史研究大家、袁偉時教授が共同通信で受けたインタビューは中国の歴史研究の現状を紹介するとともに、日中関係の行方、打開策についても示唆に富む見解を示した。是非一読を勧める

共同通信 121117 専訪：中国近代史学家袁偉時認為日中必然走向合作

<http://china.kyodonews.jp/news/2012/11/41504.html>

以上。